

出猟記録の分析結果の調査報告(Ⅰ)

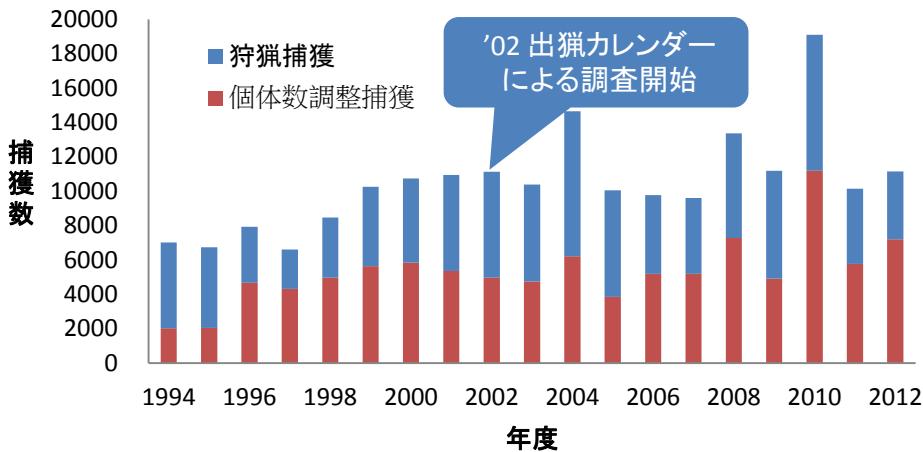
—イノシシ編—

報告していただいた記録
が活かされています！

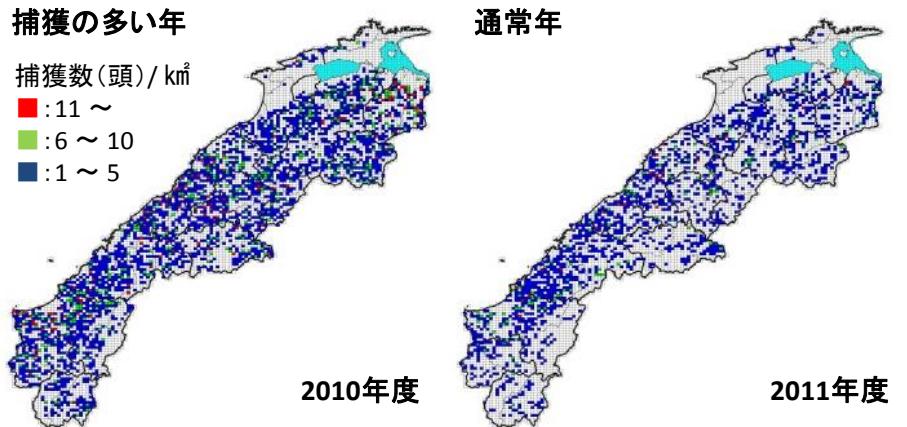
—島根県の狩猟者のみなさまへ—

毎年、出猟記録にご協力いただき、誠にありがとうございます。
これらの分析による本県でのイノシシの捕獲場所や捕獲効率から、イノシシの生息分布域や生息数の
変動を把握することができました。結果の一部を紹介します。

狩猟による捕獲数と捕獲場所

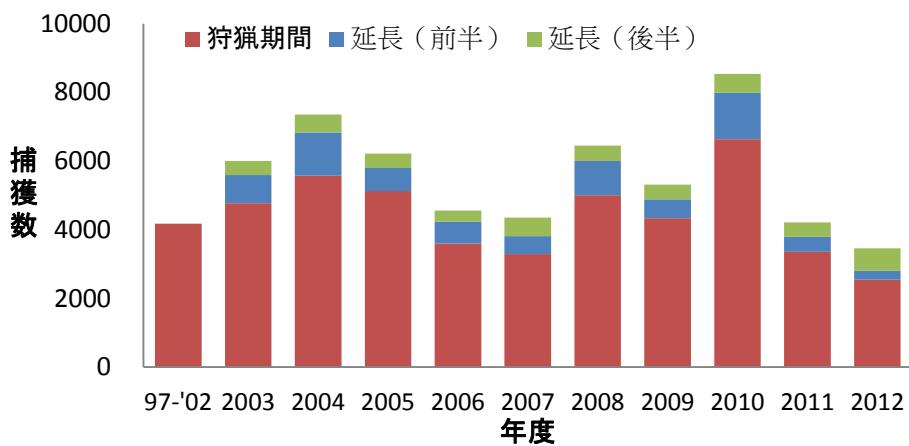


捕獲数は狩猟捕獲と個体数調整捕獲を合わせて、10,000頭前後で推移しており、高い捕獲圧がかかっていることがわかりました。



捕獲場所は主に日本海側の低標高域を中心に広がっていました。また、捕獲数が多い年は中国山地側の高標高域まで広がっていました。

猟期延長による捕獲数への影響



島根県では、2003年度から狩猟期間を11月前半と2月後半に合わせて1ヵ月間延長をしています。この両期間中の捕獲数は、18~26%を占め、狩猟期間の延長によって、捕獲数が1.2~1.3倍に増加していることがわかりました。

CPUE(捕獲効率)の推移



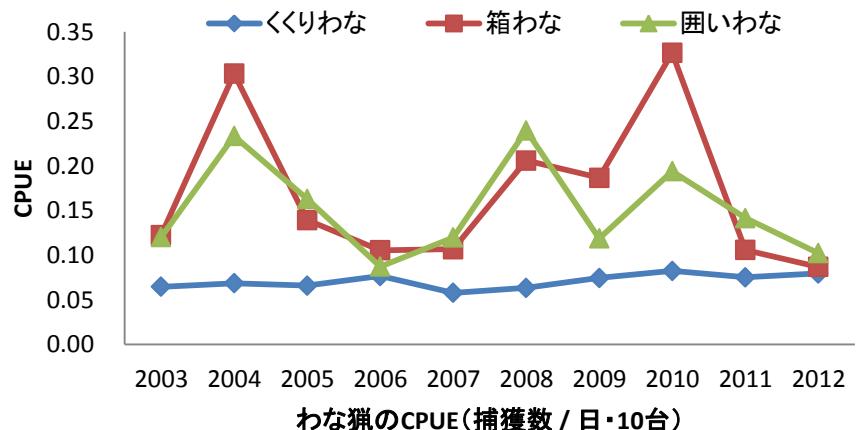
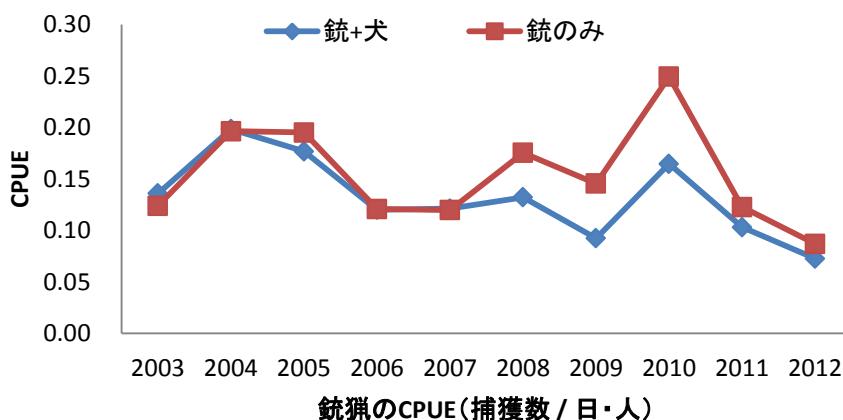
CPUE(Catch per Unit Effort)とは—

イノシシの生息数の変動をみるための指標となる数値です。
出猟記録から、いつ(月日)、どこで(メッシュ番号)、何が(性別、成幼獣)、どんな方法によって、何頭捕獲されたのかを集計し、島根県のイノシシの生息数の変動を推定しています。

$$\text{銃猟のCPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{出猟日数} \times \text{出猟人数}} \quad \text{わな猟のCPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{設置日数} \times \text{わな台数}}$$

考え方:「同じ竿、同じ技術の2人の人間が、それぞれ湖Aと湖Bに釣りに行き、湖Aでは4尾、湖Bでは2尾釣れたとすると、湖Aのほうが湖Bよりも2倍魚がいたのだろう」

2004、2010年度の数値は上昇していましたが、その翌年には通常年度の水準で推移していました。大量の捕獲を行っても、翌年には高い繁殖力によって生息数を回復していることが伺えます。



イノシシの生息数を適正に管理するために、
今後ともご協力をよろしくお願いします。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

